

2020年8月6日

サーキュラーエコノミーの実現に向けた東京大学と三菱ケミカルとの産学連携について

国立大学法人東京大学
三菱ケミカル株式会社

国立大学法人東京大学（総長：五神 真、以下「東京大学」）と三菱ケミカル株式会社（社長：和賀 昌之、以下「三菱ケミカル」）とは、サーキュラーエコノミーの実現に向け協働していくことで合意しました。

東京大学の未来ビジョン研究センターが2020年8月1日付で新たに開設したグローバル・コモンズ・センター（ダイレクター：石井 菜穂子、以下「CGC」）の活動に対し、三菱ケミカルが寄附を行うとともに、資源の循環・有効活用の観点で素材産業が目指すべきビジネスモデル等について、CGCと三菱ケミカルとで共同研究を開始します。また、CGCのダイレクターである石井菜穂子は、2020年8月1日付で三菱ケミカルのシニア・エグゼクティブ・フェローに就任しています。

グローバル・コモンズとは人類の持続的発展の共通基盤である地球環境システムのことを指しています。CGCでは、地球環境システムの持続可能性を確保するため、社会・経済システムの根本的転換のモデルと道筋を科学的に示すことを目標としています。また、企業等と連携しながら、転換の具体的なあり様と実現経路を研究し、その実現を国際的な連携の中で促すことを目指します。

（上記については、東京大学説明資料「グローバル・コモンズ・センター」ご参照）

三菱ケミカルは、三菱ケミカルホールディングスグループが掲げる「KAITEKI」というビジョンのもと、事業活動を通じた持続可能な社会の実現への貢献に取り組んでいます。こうした取組みをさらに進めるため、三菱ケミカルは、2020年4月1日付で、社長直轄の組織として「サーキュラーエコノミー推進部」を設置しました。同部のイニシアティブにより、グローバルな視点・規模で、事業部門の枠を超えて、サーキュラーエコノミーに関連するソリューションの提案と事業化を推進し、お取引先、アカデミアやスタートアップ等との連携も積極的に進めています。

三菱ケミカルは、豊かで持続可能な社会を目指し、その基盤である安定した地球環境を保全するというCGCのミッションに賛同し、その活動を支援することとしました。同時に、東京大学と三菱ケミカルとは、CGCの活動の一環として、資源の循環・有効活用が、社会に幅広い素材を提供する化学産業のビジネスモデルとしてどのようにあるべきか等につき、共同研究を行うべく協議をしています。

東京大学と三菱ケミカルとは、上記の活動を通じ、それぞれの立場から、持続可能な社会・経済システムの構築に向け貢献していきます。

以上

お問合せ先
国立大学法人東京大学未来ビジョン研究センター
事務局 TEL 03-5841-1708
株式会社三菱ケミカルホールディングス
広報・IR室 TEL 03-6748-7140

グローバル・コモンズ・センター

東京大学は、グローバル・コモンズ・センターを設立し、地球環境を構成する最も重要なシステム、すなわちグローバル・コモンズを科学に基づいて保全する国際的な枠組みと実践的な意思決定ツールの提供を目指します。

グローバル・コモンズ・センターのビジョン

人類は今、持続可能な繁栄への道筋を急いで見つけるか、それに失敗して制御不能になりかねない地球環境の危機に突入するか、その重大な岐路に立っています。人間活動の規模と環境への負荷は、急拡大しています。人口の急増、都市への集中、豊かな生活のあくなき探求は、気候システム、生物多様性、水、土地、海洋、化学循環など、人間を含むすべての生物の命を支える地球システム、すなわち「グローバル・コモンズ」に大きな圧力をかけています。20世紀後半までに、人類は、地質史で初めて、地球システムを支配し変えてしまう生き物となり、私たちと他の生物の未来を危険にさらしています。科学者たちは今、私たちが新しい地質時代である人新世（Anthropocene）に入り、地球環境のいくつかの重要な分野で限界を越えて、繁栄を続けることが難しい状態にしつつあると考えています。

新型コロナは、気候変動と同じく、私たちが人新世に生きる意味を問いかけています。生態系の安定を破壊する食料生産方式、森林破壊、無計画な都市化が引き起こす人間の経済システムと自然との衝突が、新型コロナなど人獣共通感染症の恐れを高めています。また、新型コロナは、社会・経済システムの弱点と脆さを暴き、社会の不平等を顕在化し、パンデミックや気候変動など地球規模のリスクへの私たちの対応力を試しています。また、新型コロナを巡る世界の状況は、今日の政治システムでは、グローバル・コモンズを管理する効果的な国際協力が難しいことを示しています。

このような人類社会のかつてない危機は、その根底にある原因に対処する根本的な解決策を必要としています。私たちには、地球システムの健全性を回復して人々と地球の繁栄の基盤を築く、グローバル・コモンズを管理する実効性ある取り組みが必要なのです。それは、地球に最も大きな負荷をかけるエネルギー、食料、生産/消費、都市などの社会・経済システムを、根本的に転換することです。従来の社会・経済システムは、化石燃料への依存、計画性のない都市集中、環境負荷を考慮しない食料生産や消費、資源循環なしの大量生産・大量消費などによってグローバル・コモンズを壊しており、地球を瀕死の状態に追い込んでいます。地球と人類社会を持続可能にするには、そのシステムを急速に変革する必要があります。

私たちの世代は、人類史上初めて、地球システムを大きく変えてその機能を破壊しています。しかし、私たちはその流れを変え、最悪の事態から人類を救うことのできる世代でもあります。そのためには、自らの生き方、食べ方、消費・生産方法、移動のし方を変える必要があります。新しいデジタルツールの活用はそれらの変革を飛躍的に加速できるポテンシャルを持っています。そして、持続可能な未来のために、グローバル・コモンズを管理する新しい枠組みを構築する必要があるのです。

デジタル・テクノロジーは、グローバル・コモンズ・スチュワードシップを進める上で私たちの大きな強みとなります。現実世界とサイバー空間が深く結びつく今日、データとデジタル技術が提供する洞察によって、グローバル・コモンズを保全するための社会・経済システムの転換を加速することができます。しかし、フェイクニュース、サイバーセキュリティの弱点、その他の問題が示すように、デジタル技術が正しい取り組みを妨害する可能性もあります。センターは、地球システムというグローバル・コモンズを守る上で、サイバーと現実社会との密接な関係を理解する必要があります。グローバル・コモンズを守るために「サイバー・グローバル・コモンズ」の役割についても研究を行います。

今こそ、世界の人々が力を合わせて、科学に基づいてグローバル・コモンズを保全する統治メカニズムを作ると同時に、市民や消費者、投資家、政策立案者が、今の社会・経済システムをいったん解体し、真に持続可能な新たなシステムを再構築するべく動く時です。ともに行動することで、人類社会を私たちの希求する未来への軌道に乗せることができます。

グローバル・コモンズ・センターのミッション

上記のビジョンを踏まえ、東京大学は、人新世におけるグローバル・コモンズを保全して未来の世代の繁栄を確保するために、大学は、人類が直面する挑戦への根本的な解決策を探求するために、アカデミアの境界を超えた幅広い分野のリーダー達との協創を通じ、社会変革を駆動する主導的な役割を果たすべきであるという信念のもとに、グローバル・コモンズ・センターを設立しました。

このミッションのもと、センターはグローバル・コモンズに関する共通の知的枠組みの研究開発を主導します。この枠組みは、21世紀半ばまでに地球環境の限界内での持続可能な開発を達成する統合的なシナリオ経路、および政策立案やビジネスの行動をガイドする指標やベンチマークに展開されます。それによって、センターは、エネルギー・システム、食料システム、サーキュラー・エコノミー、都市システムなど重要な社会・経済システムの転換の促進に貢献します。その活動は、地球環境コモンズとサイバー・コモンズの関係性の探求とも深く関わります。

センターは、持続可能性とグローバル・コモンズに関する国際的議論の場における、日本のより積極的な役割に貢献することも目指します。日本は、経済、文化、科学技術の高い能力を活用して、地球環境危機を克服するためにより重要な役割を果たす機会と責務を持っています。この一環として、センターは、グローバル・コモンズ・スチュワードシップのチャンピオンとして、世界的に活躍する人材を育成します。

グローバル・コモンズ・センターの戦略

第一段階（当初3か年）では、国際的な知的公共財となるべき「グローバル・コモンズ・スチュワードシップ・フレームワーク」の研究開発に取り組み、ビジネス、政策決定、デジタル、金融市場、市民社会など様々な分野のリーダー達が人類の共有財産たる地球を保全する際に真に役立つ国際的な指針を提供します。これは、グローバル・コモンズ概念の詳細な研究、科学研究に基づく社会・経済システム転換を通じた地球環境の限界範囲内における持続可能な人間社会へのシナリオ経路、および各国のグローバル・コモンズ・スチュワードシップへの貢献を測定する指標という内容で構成されるものです。

フレームワークによって、人類社会の持続に不可欠な地球システムの保全に対する各国の貢献を評価・比較するとともに、グローバル・コモンズを保全する上でのデジタル分野の役割を明確にするユニークな方法を提供する予定です。

第一段階におけるもう一つの主要課題は、いくつかの主要な社会・経済システム(またはサブ・システム)の転換のあり方を研究し促進することです。グローバル・コモンズ保全の取り組みにおける影響度と緊急性から、まずセキュラリ・エコノミーの実現と食料システムの転換を優先テーマとします。それは、グローバル・コモンズ保全の効果的な方法として認められつつある「マルチステークホルダーの連携(multi-stakeholder coalitions)」、すなわち、ビジネス、政策決定、市民社会のリーダー達が共通目標と説明責任を伴う行動計画のもとに協創するアプローチを通じて進めます。

グローバル・コモンズ・センターは、東京大学未来ビジョン研究センター内に設置され、石井菜穂子教授が初代ダイレクターに就任しました。